討論ブレチン　第11号
第四インター日本支部
日本革命的共産主義者同盟
中央書記局

資料　II

「沖縄奪還大教組全員集会」における高校生反戦諸組織の行動について」

第四インター日本支部関西地方委員会書記局

5月31日大阪扇町プールで開かれた大阪教職員組合主催の「沖縄奪還大教組全員集会」に，約120人といわれる反戦派高校生が主催者の制止を破って乱入し，一時演壇を占拠し，この争いで数名の組合員である教員が傷つけられるという事件が起った。

乱入した高校生が何を求め，いかに主観的に判断したかにかかわらず，かような彼等の行動が革命運動と反戦，沖縄奪還斗争に対する許しがたい破壊行動であることは明白である。大教組の教員たちが，この高校生の行動をいかに見，いかに対応するかにかかわらず，われわれはこれら高校反戦派と称する青年の行動を断じて容認することはできない。

ブルジョア文教政策の下で不満をうつ積させている高校生の爆発的エネルギーに対して教育労働者の運動に関わるわれわれを含めた全ての政治諸組織が，プロレタリアートの立場からの正確な指導を与える上で決定的に立ち遅れていることは，否定できない。われわれは大教組の指導方針について意見がないわけではない。しかしながら，大教組が昨年来沖縄教職員会との連帯を発展させ，沖縄奪還斗争に真剣にとり組もうとしてきたことを，われわれはしっている。昨年10月21日，大教組は「沖縄問題を正しく教える」運動を実行した。これは全日本の革命勢力がよく評価していることである。今，愛知訪米にあたり，5月31日；3万5千名の組合員のうち2万2千名が集って，今年の10月21日にはストライキでもって沖縄奪還斗争を斗う決意を示すための集会を行っていた。

このような状況の中で，事件はおこされたのである。たとえ高校生が大教組の方針にどんな不満をもっていようと，教師に対する彼等の批判に若干の正当性があろうと，このような行動の客観的意義は明白である。それは，教員の自主的大衆行動に対する破壊挑発の行動であって，それは彼等の叫ぶスローガンの主観的善意とさえも全く反対の結果をしか生み出さないことは確実である。

しかも，われわれトロツキストにとって見逃せないことは，これら高校生の中には，国際主義高校戦線のメンバーがあり，これらの諸君は第四インターナショナルとトロツキズムの名を自ら掲げていながら，このような行動に加わつたということである。

われわれはこれらの高校生諸君に訴える。一体マルクス主義，トロツキーや第四インターナショナルの基本的諸方針の中に，一度でも，このような行動を是認するものがあったであろうか？一度でも，このような行動を許す論拠を与えるものがあつたであろうか？

長期の国際革命運動の歴史の中で，わがトロツキストは常に，労働運動内の右翼的潮流やスターリニスト官僚から不断の圧迫と肉体

的暴力にさらされてきた。トロツキーを先頭とするロシアの左翼反対派は，スターリニストによってほとんどことごとく肉体的に抹殺された。党内斗争の段階においてさえ，スターリニストは左翼反対派の集会に対し，くり返し，暴力的にこれを破壊する行動をとった。もちろん同様の事態はロシアにとどまらない。ヨーロッパその他において幾多のトロツキスト同志たちが，ゲ・ペ・ウの手先によって暗から暗へ葬り去られたばかりでなく，集会その他に対する彼等の暴力的破壊行動も又くり返されてきた。

これらのスターリニストの行動は，たしかに一時的に，革命勢力に打撃を与えることができたが，しかしそのことによって彼等自身の堕落を促進し，没落を早めたのである。

歴史の発展方向に依拠し，労働者階級の革命的性格にその基本的立場において，自らの原則に確信をもつものは，うそや中傷，あるいは大衆の中での腕力沙汰に訴える必要を，敵からの自衛以外いささかも認めない。そのような手段に訴えることは，ただ労働者の目覚を妨げるだけであり，革命運動を堕落に導くだけである。ソ連のスターリン一派はトロツキストの破壊活動やサボタージュについての中傷を山と積み上げ，モスクワ裁判のでつち上げを行ったが，現在ではこれがことごとく事実無根であったことを自ら認めることを余儀なくされている。そしてそのことによって，スターリンの体制がいかに救い難く堕落していたかを暴露したのである。

今さら，これらの長期の運動の歴史の上に立つてわれわれがどうしてスターリニスト等のやり方をまねる必要があろうか？

高校生の諸君！　もし諸君が少しでも第四インターナショナルとトロツキズムに忠実であろうと欲するならば，諸君は5月31日の行動について厳重に自己批判し，大衆に対し謝罪すべきである。

われわれはトロツキストの名において，たとえこの行動が若き高校生の激情によっておこされたものであるとしても，このトロツキズムの名をけがした事件についてしゆう恥と憤情をおさえることはできない。二度と再びこのような事件をひき起こさないためにわれわれは影響の及ぶかぎり，責任をもって力をつくすであろう。だがそれにもかかわらず，このような行動を企てるものがあるとしたらそれらのものがたとえ主観的にトロツキストと称し，マルクス，レーニン主義者と考えていようとも，われわれはこの行動に対しては断呼として敵対するであろう。

高校生や学生諸君！　諸君は若く活動的であるが故に労働者階級は諸君の個々の誤りや「行過ぎ」に対して寛容である。もちろんわれわれも又青年の革命的情熱による個々の誤りを決して重大とは考えない。しかし誤りは誤りであり，堕落の傾向はそれとして反省せねばならない。そして政治的行動に参加する以上，たとえ高校生といえども十分に責任をとるべきである。革命運動は情勢如何によつて，必ずしも急進的青年が政治的成長をとげるのをまっていることができないからである。

最近の学生運動において，われわれは幾多の暴力的衝突を経験している。そしてそれはしばしば敵権力に対してだけでなく，いわゆる「内部ゲバルト」として学生組織間でくり返し行われている。そして日共＝民青といわゆる三派系との暴力衝突はほとんど日常の出来事にさえなっている。

われわれはこれまでにも何回か学生運動内部の暴力沙汰について警告を発してきた。われわれは60年安保斗争以前からこれらの傾向のあらわれに対し自らの勢力をもって常に抵抗を行ってきた。そのことによってわれわれは一時的に不利な立場に何回もたたされてきた。しかしながら，このような「内部ゲバルト」によって獲得される権威などは革命にとって役に立たない。それは結局自らの勢力内部の腐敗堕落を生み出し，長期的には革命運動を傷つけることをわれわれは絶対に疑わない。

すでにくり返し起っている運動内部の暴力事件は，労働者大衆の眼に学生運動の権威を甚しく傷つけていることは明白であるばかりでなく，学生運動そのものの理論的成長を明らかに妨げている。

もちろん個々の衝突は理由がある。日共・民青の官僚的態度は幾多の学生大衆の反感をかつており，急進学生の憎悪を挑発している。しかし今日の幾多の衝突をみる時，その多くが避けられないものばかりか，日共によってよりむしろ急進諸派によって挑発されさえしている。急進派の諸君にとってしばしば日共系学生に対する暴力はスターリニストに対する憎悪によって敵権力との衝突と同様，何らの逡巡もいらないかのように考えられているのではないかと疑われる。そして「反帝，反スターリニズム」という平行的にならべられたスローガンがしばしばそれを無批判にうけいれさせるかのようである。だがもしそうであれば，このようなやり方はかつてスターリン，テールマンがドイツにおいて社会民主主義者に対してとったいわゆる「社会ファシズム論」の犯罪的立場をくり返すものでしかない。それは急進諸派のおそるべき理論的堕落の方向を示しているといえよう。安易なゲバルトの横行，ゲバルトの賞美は，同時に他方における理論的，政治的堕落によって復しゅうされる。当然のことながら，たとえいかに革命的スローガンと情勢の革命性についての一般的抽象的粉装を伴っていても，少数による暴力的突撃が殆んど常に是認されるとしたら，マルクス主義の原則や革命斗争の歴史的経験に基ずく理論は殆んど必要がなくなるからである。このような情況の中では敵階級の挑発分子は容易に運動内部に入り込んでその破壊的役割を果し得るし，又果しているに違いない。われわれは革命的学生諸君に対し警告を発し，事態を科学的に判断し，必要な転換を行つて隊列を整備するよう訴えねばならない。憎悪や激情は方針のかわりにはならない。ただ冷静な科学的方針のみが革命の勝利をもたらし得るのである。

この学生運動を虫ばんでいる弊害は今や立ち上りつつある高校生にさえ，最初から有害な影響を与えているということが5月31日の行動によって明白に示された。

われわれは立ち上りつつある青年諸君の革命的行動に対しあらゆる支援と連帯をおしまない。不可避的に生ずる個々の誤りは，ただ諸君と共に斗争の中でそれを克服して進むよう努力しよう。だが事が5月31日のように労働者の真面目な運動に対する妨碍の行動として表わされる時，われわれは断乎として労働者の側に立ってこれらの諸君に自己批判を要求するであろう。トロツキズムの名をさえ汚したこの事件についてわれわれは自らの態度をはっきりと声明すると共に，自己の隊列を点検し，さらにわれわれの周辺にさえ発生

するこうした傾向を是正するために精力的な　　ある。
斗争を行って行くことを明らかにするもので　　１９６９年６月１日

資料Ⅲ

１９６９年６月４日

第四インターナショナル日本支部
関西地方委員会
議長　西　京　司

大阪教職員組合
委員長　東　谷　敏　雄　殿

沖縄奪還大教組全員集会に対する国際主義高校戦線
の行動について（お詫び）

われわれは労働者階級の斗争の前進のために微力ながら力をつくしつつ，その活動において，異つた労働者諸組織間の相互批判の承認及び労働者階級の当面の具体的要求獲得のための統一という統一戦線の原則の確立のために，さらに労働者諸組織の内部生活における民主主義の発展のために，一貫して闘ってきました。

こうしたわれわれの立場にもかかわらず，第四インターナショナルとトロツキズムの名において行動する国際主義高校戦線に属する高校生諸君が，こうした立場に対する理解の欠如から，去る５月３１日の「沖縄奪還大教組全員集会」において，誤った行動をとり，貴団体に御迷惑をかけたことをお詫びすると共に，以後かかる事態のなきよう力の及ぶかぎり努力する所存であることを申し添えます。

資料Ⅶ

高校生運動告訴を支持する府高教指導部を糾弾せよ！

第四インターナショナル関西地方委員会
１９６９年７月１５日

７月１１日，５．３１大教組全員集会に高校生が介入したことによって引き起された事件に関して，三人の教師が高校生を告訴したことが報ぜられた。しかも，府高教指導部は，この告訴を支持しているという。

事件直後に，大教組執行部は「この高校生たちは敵対する無法集団であり，徹底的に弧立させねばならない」という見解を発表し，告訴支持もありうることを表明したが，この見解は，９日の大教組中央委員会で，執行部見解の撤回と「告訴しないことを明確にする」という動議が可決されたことによって，否定された。

今回の三人の教師の告訴とそれを支持した府高教の立場は，明らかに大教組中央委の決定を無視する一部勢力の強引なやり方にもとずいており，大教組執行部はこれを黙認している。

大教組中央委の決定が「教え子を告訴して教育責任が果せるのか」という大多数の教師の「良心」にうらづけられたものであることは明らかであるが，すでに５．３１に於て，高校生達はこのような教師たちの「斗う姿勢」を批判していた。５．３１斗争によって高校生運動が提起した問題に真剣に応えようとする努力を放棄し，権力，ブルジョア，ジャーナリズムと同じく「暴力高校生」なるキャンペーンをはって彼らを弧立させようとすることは，ますます高校生運動を袋小路に追い込み，彼らを極左主義におとし入れることにしかならないであろう。問題は，高校生運動が提起してきている問題に，教育労働者が正面から応えようとし，高校生運動の独自性を保証しつつ斗いのなかで共斗関係を築きあげてゆくことである。

現在の高校生運動は，ベトナム反戦を中心にして世界的な規模で成長してきている「新しい世代」の反乱の一環としてとらえられなければならない。６８年のフランス五月革命が広範な高校生たちの学園斗争を背景にしており，それ故に五月革命のなかで学生と高等教員組合が重要な役割を果した教訓を学ばなければならない。告訴されている高校生達は，ベトナム反戦，沖縄，反安保斗争を先進的に斗ってきた部隊である。この斗いのなかから彼らは，単に街頭で反戦，反安保を叫んで急進的な運動を展開するだけではなく，日常的な自らの学園生活での「存在」を問題にしなければならないという教訓をひき出しつつあるのだ。５．３１の高校生が提起した問題は，単純街頭急進主義をのりこえようとした彼らなりの試みであった。それを高校生運動が現在もっている極左的，最後通牒的限界だけをとらえて批判しても，問題は何一つ解決しない。

学園生活での彼らの存在は，受験というこ

とを絶えずちらつかせることによる様々な側面からの意識の抑圧でとりかこまれている。彼らが一歩でも自立した意識と自らの組織を発展させようとすると，そこに教師が「管理者」となって現れる。高校生の一般的な意識がこのようなものであるとき，教育労働者はどのような斗いでこの高校生とのギャップを克服しようとするのか。少くとも個々の教師がもっと勉強し，その場その場で反動から「民主的教育を防衛」してゆきましょう，という方針では，誰からも信用されなくなることは，この間の斗争が明らかにしてきたことであるだろう。

問われているのは，教師の斗う姿勢である。我々は，教育労働者諸君に訴える。直ちに職場で，府高教指導部の方針に対する糾弾決議をあげよ！　高校生運動の独自性を保証し，斗う共斗関係のなかから，教育の場を教育労働者の斗う団結で国家権力から奪還するなかから，問題の解決方向を見出すよう確認しよう。

今回の告訴事件に関して，我々はもう一つの重要な側面を見逃すわけにはゆかない。現在・反戦斗争・沖縄斗争・大学斗争などに対して国家権力は強行な弾圧政策を押し進めている。春斗に対する機動隊の直接介入・反戦派労働者への集中攻撃，大学斗争や街頭斗争に対する圧倒的な機動隊の狂暴な弾圧，これらと共に大学立法や防衛二法・出入国管理法などの制定によって，７０年へ向けての弾圧を強化してきている。このような情勢のなかで，今回の告訴と府高教の支持の路線は決定されているのである。又，この告訴は，国家権力の弾圧や民同官僚，日本共産党の中傷をはねのけながら，職場での労働者の自立した活動家集団へと成長し，反合理化斗争，１０．２１ストライキ斗争へと自らの戦列をきたえ直そうとしている反戦派労働者のスキをねらって出されてきており，付加えるならば高校生の夏休み入りをさえねらっていたのである。我々は，このような国家権力の反動的弾圧政策に手をかすような告訴を断じて許してはならない。

反戦派労働者諸君，高校生諸君！　直ちに抗議集会を開き，府高教を糾弾せよ！

我々の課題は，民同官僚と日共スターリニストの斗う統一戦線の破壊策動を粉砕し，これらと対抗しつつ，職場に自立した行動的な活動家集団を勝ちとってゆくことである。１０．２１ストライキ斗争へとこれらの労働者の斗う組織が勝ちとられない限り，５．３１集会での「国民運動」的沖縄返還論をのりこえて真にストライキ斗争を斗い抜くことはできないし，この国民運動論を批判してきた高校生運動に対しても応えてゆくことができないであろう。

日本共産党の反トロツキスト，暴力分子キャンペーンは，一般大衆の「暴力」に対する恐怖感とブルジョア的民主主義の「正当性」に依拠しつつ，その裏で反戦青年委や学生・高校生・更に革命的労働者の運動に対する統一と組織破壊に狂　していることを示している。これは彼らが，成長しつつある新しい左翼急進主義に対して，大衆斗争のなかでこれらの部分に対して正しい指導とその限界を克服する展望を示し得ず，専ら自らの党派運動に終止し，その先細りにあせりを感じて，「民同官僚の日共」の反戦派排除による斗い

放棄した統一戦線にしがみつこうとしていることによる。大阪に於ても，部落解放同盟や神戸大学事件などのように，階級敵であるはずのブルジョア裁判所に，斗う部隊を売り渡そうとする血迷った路線をとり，更に一層，「暴力分子」を拡大して，大阪民主新報に於て，反戦青年委員会の活動家を氏名入りで公然と攻撃してきている。大学斗争に於ては，更に狂暴化しており，大学立法反対斗争は，先ず，バリケードストライキ解除でなければならないとして，武装部隊を組織し，当局と機動隊とタイアップしながら斗争破壊の組織的「暴力集団」として現れているのである。

我々は，これら日共と民同官僚の犯罪性を徹底的に大衆の面前であばき，それをのり超える斗いを下から組織しなければならない。

先進的教育労働者諸君！

直ちに職場に抗議のうずを巻き起し，府高教糾弾決議を勝ちとろう！

１０．２１ストライキに向けて，職場に，自立した行動的活動家集団を勝ちとれ！

反戦派労働者，及び学生・高校生諸君！

府高教を糾弾し，日共，民同官僚の反トロー暴力分子キャンペーンを粉砕し職場，学園に大衆的な斗争機関を構築せよ！

連絡先
大阪市北区万才町１
北１ビル内
コンミューン社
（TEL341-0107）

高校生の闘争を全面的に擁護せよ！民同官僚の大阪反戦分裂の企図を粉砕せよ！

5・31大教組沖縄集会及び同盟関西地方委声明に関する声明

一九六九年六月九日

第四インターナショナル日本支部
日本革命的共産主義者同盟
中央政治局

米軍全軍労に武力弾圧！

今こそ本土での沖縄闘争を

新たな局面にたつ砂川基地撤去闘争

出入国管理法案を粉砕せよ！

国際主義共産学生同盟アッピール

11月決戦を極東解放革命への巨歩として打ち抜け

はじめに

一、十一月政治決戦の綱領的立場

中道左派政党への第一歩

——社会党第四五回中央委員会批判——

(一)

(二)

(三)

佐藤訪米阻止——拠点政治ストにむけ教員全国反戦結成さる

十一月沖縄・安保の闘う指針

■沖縄解放闘争と極東解放革命　同盟中央理論機関誌　B5判　一二六頁　三〇〇円

■第四インターナショナル　国際主義共産学生同盟理論機関誌　B5判　八八頁　二〇〇円　No 6

■永続革命・創刊号　A5判　一一九頁　三〇〇円

◎ウニタ・文献等・各大学生協で取扱っています。

高校生委員会からのアッピール

全国に国際主義高校戦線を結成せよ！

国際主義共産学生同盟　高校生委員会

佐藤訪米阻止にむけ共同斗争を確認

——各県反戦代表者会議——

国際革命評論

第1号　第2号

国際通信社判　200円